

4.ごみ処理広域化事業(霞台厚生施設組合) (1)ごみ処理場の整備



【構成市町村】石岡市・小美玉市・かすみがうら市・茨城町
【運用開始予定】2021年(H33年)4月
【総事業費】270億円(整備費153億円, 20年間の運転業務117億円)
【負担割合】石岡市38.03%, 小美玉市24.12%
かすみがうら市22.38%, 茨城町15.47%
【コスト削減】**運営費削減額(B-A) = △1億3,600万円**
(A) 2組合2施設への負担金 = 約2億8,400万円(H26実績)
(B) 新施設整備後の負担金 = 約1億4,800万円(H33見込)

21

【4.ごみ処理広域化事業(霞台厚生施設) (1) ごみ処理場の整備】

つづきまして、4大事業の4点目、ごみ処理場の整備についてです。これまで小美玉市は、市内に2つのゴミ処理場が所在し、管理してきました。

旧美野里地区の「茨城美野里環境組合」は、茨城町とともに、昭和61年の竣工から30年以上が経過し、県内で最も古い施設のひとつとなっており、老朽化しています。

そのような中、ごみ処理広域化に係る国の指針や県の広域化計画に基づき、かすみがうら市、旧八郷町、旧新治村で構成する「新治地方広域事務組合」のごみ処理場も含めまして、旧小川町と玉里村、旧石岡市で構成していた「霞台厚生施設組合」の敷地内に集約し、新広域ごみ処理施設を建設しようと、本年度から本格的に工事に着手したところです。

完成予定は2021年(H33)年3月を予定しており、事業費は建設費で153億円、稼働後の運転業務委託として20年間の委託契約により117億円、合計270億円となります。

広域化に伴うコスト削減効果としては、これまで小美玉市は、2つのゴミ処理場の維持管理に、年間約2億8,400万円を負担してきましたが、新施設の完成後は、4市町での体制で運営、維持管理するので、1年間で約1億3,600万円を削減できる見込みとなります。

4.ごみ処理広域化事業(霞台厚生施設組合) (1)ごみ処理場の整備



【4.ごみ処理広域化事業（霞台厚生施設）（1）ごみ処理場の整備】

新施設は、霞台厚生施設組合の既存施設の西側に建築いたします。1日の処理能力は、焼却施設で215トン、破碎設備は20トン、選別設備で2トン。

建設工事は日立造船グループで行い、日立造船グループが設立した「特別目的会社」が20年間の運営を担います。

また、広域化に伴う搬入車両（現在：約200台⇒広域化：約400台）の増加に伴い、施設前の道路を広げ、警察等とも協議しながら、よりスムーズかつ安全にご利用いただけるよう、新施設の供用開始にあわせて周辺道路の整備改良を進めてまいります。

4.ごみ処理広域化事業

【課題】

1. 地域の活性化に貢献する地域還元施設の整備

【スケジュール】

H30 還元施設整備等の方針・基本構想策定, 適地検討
H31 施設基本計画(設計), 用地選定・取得, 事業方式検討ほか
H32 事業者選定, 工事(～H33年度)
H34 年度 供用開始

地域の住民の方々のニーズを踏まえた施設整備

2. 茨城美野里環境組合クリーンセンター

広域ごみ処理施設建設に伴い, 既存の建物, 敷地の利活用をどのように進めていくか?

23

【ごみ処理広域化事業の課題】

ごみ処理広域化事業に関する課題としまして1点目。施設の建設に伴い, これまで地域住民の憩いの場として提供されてきた「白雲荘」が, 平成29年度をもって廃止をし, 白雲荘に代わる新たな地域住民への還元施設等の整備が計画されています。

平成34年度の供用開始を目指しており, 今年度, 学識経験者や4市町の区長会長, 地元区長から成る委員会で検討するとともに, 住民アンケートや高校生とのワークショップなど, 地域の住民の皆さまの声を踏まえながら, どのような施設を整備していくか, 検討を進めています。

2点目が, 茨城美野里環境組合の利活用です。新広域ごみ処理施設の建設に伴い, 現在稼動する施設の取扱いや跡地をどのように活用していくのかが, 課題のひとつとなっております。

平成27年度に策定をされた基本構想では, 既存施設を活かした中間置場の設置など, 具体的な活用方策も例示されており, 今後, 4市町と連携し, 地域住民の皆さまの声を聞きながら, 検討を進めていきます。